

開発教育支援事業 ガイドブック



独立行政法人 国際協力機構
沖縄センター

〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1
担当：市民参加協力課
Tel：098-876-6000（代）
<https://www.jica.go.jp/okinawa/index.html>



2023年12月発行

あなたの教室で
万国津梁の心を育てる



沖縄の
強みを活かした
国際協力

- ・児童/生徒向けプログラムの紹介 p5
- ・SDGsを活用した授業例の掲載 p11～14
- ・教員向けプログラムのご案内 p15



開発教育支援事業のご案内 あなたの教室と 世界をつなぎます

JICAでは、世界の現状や発展途上国が抱える課題への理解を深めるために、学校現場で活用いただける国際理解教育／開発教育の支援を行っています。先生方や児童・生徒の皆さんに参加いただけるプログラムの実施や各教材の作成も行っています。

—どんな話が聞けるの？—

開発途上国の現場での実体験に基づいた話を聞くことができます。国際協力や途上国の文化や暮らしはもちろんのこと、環境、道德、スポーツ、キャリア・進路など、ご希望のテーマや内容・時間に応じてプログラムを組み立てることができます。

その他、持続可能な開発目標(SDGs)に関する日本、沖縄の取り組み事例などもプログラムに取り入れます。

—沖縄の強みを活かした国際協力—

日本の最南端にある沖縄は、開発途上国が分布する地域と地理(緯度的)に近く、気候などが似ているなどの共通点が多いと言われています。

①亜熱帯性、②島嶼性、③独自の歴史・文化を活かした国際協力の経験を踏まえ、開発教育では、沖縄だからこそできるSDGsの実践方法を考えます。



はじめに 巻頭のことば

JICAでは、(1) 日本社会に対する開発途上国に関する「知見の還元」、(2) 自分に何ができるかを「考える機会の提供」、および(3) 地域での開発教育推進のための「橋渡し役」の3点に重点を置き、国際理解教育／開発教育の支援を実施しています。

沖縄県においては「世界に開かれた交流と共生の島」を目指す県民の皆様とともに、歴史的・地理的特性により培われた他の地域にはない沖縄の知識・技術・経験に基づく国際協力活動に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献しています。

国際社会における開発問題を知り、自分で何ができるのかを考え、自ら行動できるグローバル人材の育成の一助として、JICAの開発教育支援事業をご活用ください。



目次

- 05 児童・生徒向けプログラム
- 07 プログラム実施の流れ
- 09 ワークショップ型の学習
- 11 授業・訪問学習例
- 15 教員向けプログラム
- 17 その他のご案内
- 18 参加者の声
- 20 申し込みフォーム
- 22 実績





“国際協力”を教室にお届け JICA国際協力出前講座

- ・沖縄県内、離島へも講師を派遣します
- ・1クラスから、全校生徒まで受講が可能です

開発途上国で国際協力活動を経験した、JICA海外協力隊経験者や開発途上国から日本に学びに来ている研修員を講師とするプログラムです。海外の暮らしや、現地の実情、日本との関係、国際協力活動について知る機会、考える機会として、総合的な学習時間・各教科や課外活動、また教員やPTA、自治体などの研修でもご活用いただいています。

対象：小学校～大学、特別支援学校、
専門学校、一般
実施日：通年（実施日、公演時間も調整可能）
申込：本誌p20の申込書に記入いただき、
メールまたはFAXください。
joca-okinawa@joca.or.jp
FAX 098-943-7802



費用：派遣講師がJICAボランティア経験者の場合、謝金と交通費が発生します。
原則として依頼団体にご負担いただくことになりますので予めご了承ください。
謝金単価については、学校や自治体における講師謝金単価基準がある場合は、そちらに基づきご相談ください。
単価基準がない場合は、目安として一人当たり1時間4,600円（JICA規定に基づく）です。



ようこそJICA沖縄へ センター訪問学習

- ・浦添市前田にあるJICA沖縄をご訪問ください
- ・世界の現状を知ることができる展示、民族衣装、世界の楽器、多国籍料理が楽しめます

JICA沖縄では、年間98の国と地域から398名（2019年度）の研修員が、自国の発展のために研修に励んでいます。訪問学習では、施設案内のほか、ODA（政府開発援助）やJICAの役割の説明、JICA海外協力隊の体験談やワークショップ等を行います。

国際協力の現場で活躍するウチナンチュや海外から来沖している研修員との交流も楽しめます。
また、世界の現状を知ることができる展示、世界各国の民族衣装、図書資料室、多国籍料理（OIC食堂）に触れて世界を感じることができます。訪問学習で施設を見学することで学びがより深まります。

対象：小学校～大学、特別支援学校、
専門学校、一般
実施日：月曜日～土曜日（祝日除く）9:30～17:00
送迎：学校車両や公共交通機関でお越しください。
当方での車両の用意は致しかねます。
その他：左に同じ



プログラム実施の流れ

児童・生徒を対象とした「JICA国際協力出前講座」「センター訪問学習」の場合

1.お申込み



実施希望日の1ヵ月前までに、「申込書」をEメールもしくはFaxで送付してください。

※申込書は右下のQRコード、もしくは本誌P20からご利用ください。

宛先：
joca-okinawa@joca.or.jp
oictpp@jica.go.jp
FAX098-943-7802



2.日程調整 打ち合わせ



申込書を基に、電話やメールで日程と内容の調整を行います。
ご希望の日程で実施できない場合もございます、予めご了承ください。

出前講座は、離島や定時制高校での実施も可能です。お気軽にご相談ください。

3.プログラム 講師の決定



ご希望のテーマや内容に応じて、こちらで講師を選定します。

プログラムで扱う国・地域が限定されている場合や保健、医療分野(特に看護師、保健師、助産師)のご希望の場合は、講師選定に時間がかかります。

4.プログラム実施(当日)



出前講座の場合は、学校会場での機材の設営などについて講師へ説明・サポートをお願いします。

訪問学習の際は、時間にゆとりを持ってJICA沖縄へお越しください。

そのほか謝金や交通費の支払いなど必要な事務手続きを行ってください。



5.教員アンケートのご記入



アンケートを、Eメールで担当者へお送りください。

感想文やお礼のお手紙をお送りいただける場合には、講師個人宛に郵送をお願いします。



体験で深める ワークショップ型の学習

持続可能な開発や国際理解の講話、協力隊体験談などの講義型の学習のほか、参加者の主体性を重視したワークショップも実施しています。模擬体験を通して、参加者に当事者意識が生まれ理解が深まります。

世界のつながりを考える上で、自己／他者理解についても扱います。普段は控えめな生徒がグループで意見し、それが相手に受け入れられる体験をきっかけに自信につなげていきます。

ワークショップ型のプログラムは出前講座、訪問学習で実施できます。ワークショップの種類や内容・実施方法はご相談ください。



スマホから考える世界・わたし・SDGs

スマートフォンの生産工程においてさまざまな問題を学び、責任ある消費者として、またより公正な社会をつくる市民としての意識を高めることを目的とします。

フォトランゲージ

1枚の写真をじっくり観察し行うワークショップです。写真にキャプションを付けて意見を書き出す参加型のアクティビティです。

同じ写真を見ても、人によって異なるイメージを持つことがあります。その写真に好感をもつ人もいれば、否定的な印象をもつひともいるかもしれません。同じものを見てもいろいろな捉え方があることを学ぶことができます。

貿易ゲーム

「貿易」を中心に、世界経済の動きを疑似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考える事を目的としたシミュレーションゲームです。

自由貿易や経済のグローバル化が引き起こす問題に気づき、南北格差や環境問題の解決に向けて、国際協力のあり方や、私たち一人ひとりの行動について考えます。

世界がもし 100人の村だったら

世界には約80億もの方がいますが、それを100人に縮めてみたらどうなるでしょうか？一人一枚「役割カード」をもって実施します。人口比に合わせて大陸ごとに分かれ、貧富の差に比例してビスケットを分配するアクティビティでは、疑似体験としてインパクトがあります。

パーム油のはなし -地球にやさしいってなんだろう-

ロールプレイやグループワークを通じて、身近なものから世界とのつながりを知るワークショップです。

大量生産・大量消費のライフスタイル、グローバル化、プランテーション、児童労働など、さまざまなテーマで学習することができます。



このワークショップでは認定特定非営利活動法人開発教育協会（DEAR）発行の教材を利用します。詳細は<http://www.dear.or.jp/>を参照してください。

プログラム例①

小学校道徳×協力隊体験談

内容「人とのかかわりに関すること～相互理解・寛容～」

おすすめポイント：現地での活動は異文化との遭遇と適応の繰り返しです。その中で、どのように他者を尊重しながらも自分を受け入れてもらうのか、日常にある他者とのかかわりへのヒントがたくさんあります。

時間	学習過程	内容	学びのポイント
5分	導入	テーマとゴールの確認	
25分	展開①	海外協力隊体験談 ・国や活動の紹介 ・途上国で経験した異文化体験	日本の常識だけでは受け止められない異文化との遭遇について実体験を聞くことで、異文化が存在することを自覚する
10分	展開②	異文化への適応 ・どのように異文化と向き合ってきたか ・日本での日常生活にも異文化はある	協力隊流の異文化適応のコツを紹介 キーワードは「好き」「平気」「嫌い」
5分	まとめ	質疑応答 / 感想の共有	

「平和」「生命の尊さ」など様々なテーマを設定することも可能です。



プログラム例②

中学校理科×国際理解ワークショップ「パーム油のはなし」

内容「自然と人間～人間と環境～」

おすすめポイント：パーム油のプランテーションのプロジェクト作りを疑似体験します。頭では分かっている環境破壊を様々な視点から話し合うことで、自分も当事者であることを感じてもらうことができます。

時間	学習過程	内容	学びのポイント
5分	導入	テーマとゴールの確認	
5分	展開①	パーム油って何？ ・日本では聞きなれないパーム油は、本当に遠い存在なのでしょうか？	カレーやポテトチップス等日本で売られているものにも多く使われていることに気づく
35分	展開②	シミュレーションワーク ・パーム油プランテーションのプロジェクトに関わる人々（賛成派・反対派）になりきり、それぞれの立場で話し合いを行う	パーム油は私たちの生活にはなくてはならないもの。生産地では何が起きているのか、人間の生活と環境について考える
5分	まとめ	質疑応答 / 感想の共有	

このワークショップでは開発教育協会（DEAR）発行の教材を利用します。詳細は<http://www.dear.or.jp/>を参照してください。



プログラム例③

中学校技術×沖縄発国際協力（SDGsフォトランゲージ）

内容項目「社会の発展と技術」

おすすめポイント：沖縄県内の自治体・民間企業などが県内の課題解決のために取り組んできた技術やノウハウが国際協力に活かされていることを学びます。身近な問題の解決に様々な技術が役立つこと、世界の課題解決につながることから身近にできることを考えます。

時間	学習過程	内容	学びのポイント
5分	導入	テーマとゴールの確認	
5分	展開①	SDGsって何？	SDGsの基本の「き」を確認する
20分	展開②	沖縄発国際協力 SDGsフォトランゲージ ・沖縄の技術が途上国で活かされている事例を用います。プロジェクト現場からどんな場面の写真かグループで話し合う	沖縄の強みを活かした国際協力の写真を使用します。写真からは途上国の現状を知ることできる
10分	展開③	解説&Take Action ・それぞれの写真にどんな沖縄の技術が活かされているか解説。 ・身近な課題に取り組む大切さを意識し、SDGs達成のために自分ができることを考える	沖縄には誇るべき技術があること、自分の取り組みが国際協力につながることを知ってもらう
5分	まとめ	質疑応答 感想の共有	

沖縄発の国際協力は技術分野に限っておらず、医療、平和、観光など様々な協力があります。写真を変えることで様々な「沖縄発」を学ぶことができます。また、SDGsの視点だけでなく、郷土学習にも活用できます。

その他のプログラム

～各教科の学習内容とSDGsを関連させたプログラム～

中学保健体育「飲料水の衛生的管理」×SDGsフォトランゲージ

おすすめポイント：日本にいと実感しづらい「水」の問題。海外の事例も紹介しながら、生活にかかわりの深い水以外の課題ともつながっていることを学びます。

中学家庭科「消費者の権利と責任」×「スマホから考える世界・わたし・SDGs」

おすすめポイント：高校生にとって身近なスマートフォンを題材にスマホ製造の裏で何が起きているのか、どんな国の、どんな課題と繋がっているのかを学びます。

訪問学習例

2時間の場合：施設見学に+αの活動で学びを深めます

時間	内容
5分	はじめの挨拶
10分	JICA事業概要 ・施設訪問の目的に合わせてポイントを絞って説明
40分	協力隊体験談 / 国際理解ワークショップ ・センター内で実施することで学習意欲を高めます ・滞在時間と訪問の目的に合わせて内容を調整します
50分	施設見学 ・プログラムに関係する国や地域の展示物の利用も可能です ・JICA沖縄で研修が行われている時は途上国からの研修員が学んでいる様子を見学できます
5分	質疑応答 / 感想の共有

施設見学を中心とした1時間のプログラムも可能です。

お時間あるときは、前後にOIC食堂で多国籍料理を味わい、研修員との交流をお楽しみください。

JICA沖縄 開発教育 支援プログラム

～教職員のためのスキルアップ術～



国際理解教育って？開発教育ってどんな授業をすればいいの？

そんな先生方を対象にJICA沖縄センターでは、教員向けのプログラムをご用意しています。SDGs学習など、教科に関わらず、学校での授業にお役立てください。

実施時期、負担費用、応募条件など詳細に関しまして、JICA沖縄の公式サイトからご確認いただけます。

詳しくは、080-8020-8441（JOCA沖縄 開発教育支援班）までお問合せください。



授業で役立つ新しい学びをつくろう！

開発教育 指導者養成講座

国際理解教育・開発教育の参加型学習の基本的な考え方や手法を学ぶプログラムです。ワークショップづくりにチャレンジしましょう。
参加無料/定員30名/7、8、1月（4回）/教員ネットワーク強化研修（2回）



国際協力の現場を訪ねてみませんか？

教師海外研修

沖縄の校種・教科の異なる先生方が国際協力の現場を訪ねます。多様な経験から学びと感動を持ち帰り、授業案づくり、授業実践していただくプログラムです。

夏休み期間の10日間程度、派遣費用はJICA負担（宿泊費、予防接種代など本人負担あり）、前後に6回程度の研修会があります。

応募時期は4月、対象は本採用2年目以降の沖縄県内教員です。

※状況により、国内研修となる場合もあります。



学校の教員でJICAの研修を！

JICA 校内研修

学校単位や教育事務所の研修などでお申込みいただくプログラムです。教員同士でのディスカッションやグループワークを通して、国際理解教育の手法を学びます。JICAから講師を派遣します。
実施無料 / 年間10件程度

その他のご案内

直接会って話してみよう 海外研修員との交流



利用：出前講座での実施

対象：小学校～高等学校、特別支援学校

さまざまな開発途上国から来日しているJICA研修員との交流の場を提供しています。JICA研修員の学校訪問は、交流を通じて開発途上国や多文化理解に関する児童・生徒の興味・関心を引き出し、国際理解から国際協力への礎を築くことを目的としています。

研修スケジュールに合わせた実施となりますので、ご希望に添えない場合もあります。

多国籍料理を召し上がれ OIC食堂・図書資料室



利用：一般利用可、貸出無料、駐車場有り

JICA施設内には、一般のお客様もご利用できる食堂があるのをご存知でしたか？

エスニック料理を中心とした世界中の多彩な味覚が楽しめます。

国際協力に関する情報の窓口として、図書資料室もご利用可能です。世界各国の民族衣装・民芸品・楽器の展示もお楽しみください。

言葉にすれば世界を動かす力になる JICA国際協力中学生・高校生 エッセイコンテスト



連携：訪問学習や出前講座との組み合わせをお勧めします。

次の世代を担う中学生・高校生を対象に、開発途上国の現状や開発途上国と日本との関係について理解を深め、国際社会の中で日本、そして自分たち一人ひとりがどのように行動すべきかを考えることを目的とした作品を募集しております。

詳しくは「JICA地球ひろば」のホームページにてご確認ください。

参加者の

声

出前講座（生徒の声）

・海外で活躍するのは大変つらいことが多いと思っていたけど、JICA海外協力隊は自分の好きなことや得意なことなど自分の経験を活かして仕事ができるとわかって面白そうだなと思いました。

・まだ困難があると思いますが、ソロモンの楽しそうな生徒たちの笑顔を守るために、少しでも力になればなと思います、ユニセフなどの募金活動頑張ります。

訪問学習（生徒の声）

・グループでワークショップの際に、ひとそれぞれの観点があって、自分では考えられないような面白い意見が出ました。自分と友人は仲が良くても違う考えをする。生活環境や文化が異なれば、さらに違う観点から見た意見が出るのかなと思いました。

・心に残ったことは、外国の衣装です。日本と違ってピンク、黄色、赤などカラフルなワンピースやドレスがありました。

出前講座（教員の声）

・オンライン開催となりましたが、イベント性を持たせることもでき、学生にとって良い刺激になりました。オンラインにもメリット／デメリットがありますが、個人的にはそれらを踏まえて、とにかくこのような活動自体を続けることが大切だと改めて気づかされました。

・机上では、南北問題や貧困格差などの言葉をりかいているであろう生徒たち。実際に活動中に窃盗やカブクで奪う場面も見られた。振り返りで、それがリアルな世界の姿であることを知った時の表情が印象的だった。とてもいい体験でした。

・生徒たちはワークショップは初体験という子も多かったのですが、講師の方の誘導が上手で楽しく取り組んでいました。答えのない議論を活発におこなう機会になった。日頃あまり触れない発展途上国のことについて思いをはせる良い機会になった。

指導者養成講座

・一緒に考え行動することで、国を変えることができる。石原氏のこれまでの活動内容を聞いて、私自身に何ができるのか？考えていきたいです。

・ワークショップ作成タイムが印象に残りました。最初は何をしたらよいか、何を話せばよいか分からず戸惑っていたのですが、最後には、「こうしたら」「それいいかも」と意見交換することができました。みんなで考えることで、新しいアイデアや視点に気づく事ができ、おもしろかったです。

・国際理解教育と一言で言っても、多様な視点と教材で深く学ぶことができました。ワークショップを通して考えたことが多くありました。きっと生徒にとっても、同じような体験になると思います。私たち教師がもっと国際理解教育について知識や理解を深めて、生徒に伝えられるようにもっと学び続けていきたいです。次年度もタイミングが合いましたらぜひ参加したいです。

・指導者養成講座を通して、大変視野を広げることができました。各分野で活躍されている方々の実践や講座を受講している先生方からの様々な視点からの意見を通して、日々の実践を振り返ることもできました。

よくある質問



児童・生徒向け

Q1：講師謝金の金額に目安はありますか？

謝金の目安は講師一人当たり1時間4,600円（JICA規定・交通費別）です。学校や自治体における講師謝金単価基準がある場合は、そちらに基づきご相談ください。

Q2：訪問学習や出前講座は、土日・祝日にも実施できますか？

訪問学習は、JICA沖縄の開館状況に合わせるため日曜・祝日は実施できませんが土曜日は事前相談となります。出前講座は、講師の日程調整次第では、土日・祝日にも実施可能です。早めにご相談ください。

Q3：各クラスで行いたいのですが、複数の講師を同時に派遣することは可能ですか？

可能です。ただし講師の調整に時間を要しますので、早めのお申込みをお願いします。また、状況によっては、各クラスの時間をずらしての実施をご相談させていただく場合もございます。

Q4：年間を通して、いつでも実施できますか？

年度ごとに実施件数が定められており、件数が上限に達した場合は翌年度のお申込みをお願いしています。例年1月には、お申込件数が上限に達しています。4月～6月には実施件数が少なく、10月、12月に実施件数が多い傾向にあります。

教員向け

Q1：指導者養成講座は4回講座とありますが、参加できない回があります。その場合は申込できますか？

お申込みいただくことは可能です。ただし、全ての回に参加可能な方を優先し受付させていただきますので、その点ご了承ください。

Q2：教師海外研修は、教員であれば参加可能ですか？

正採用の教員の方のお申込をお願いしております。

Q3：校内研修は全教員参加でなければならないですか？

全教員参加でなく、学年単位や教科別、同校内で関心のある有志でのお申込が可能です。

Q4：校内研修や教育事務所での研修は、学校や事務所で実施しますか？

学校や事務所のほかに、JICA沖縄施設での実施が可能です。

【学校／大学／一般対象】JICA 国際協力出前講座・センター訪問学習 申込書

学校/団体名	学校長/代表者名	
	担当者名	(年担当)
連絡先	住所 〒	
	TEL: _____ E-mail: _____ FAX: _____ (記載必須です。別途国際理解教育関連情報の提供もさせていただきます。予めご承知おください。) ホームページの URL: _____	
対象・人数	学年 クラス 名 教職員 名 その他 名 計 名	
申込の背景 (JICA 事業活用実績など)	*本事業の活用実績 <input type="checkbox"/> 1回 <input type="checkbox"/> 2回以上 *年間指導計画での位置付けや事前準備・事後フォローアップなどがあれば <input type="checkbox"/> 年間指導計画有 <input type="checkbox"/> 事前準備有 <input type="checkbox"/> 事後フォローアップ有 <input type="checkbox"/> 成果発表会有(/ 予定)	
ねらい		
希望する内容 (双方の組合せも可能です)	<国際協力出前講座> <input type="checkbox"/> 1. 研修員との交流(※要相談) <input type="checkbox"/> 2. 青年海外協力隊等体験談 <input type="checkbox"/> 3. JICA 事業説明 <input type="checkbox"/> 4. 国際理解ワークショップ <input type="checkbox"/> 5. 貸出、提供(民族衣装、パネル、教材等)	<センター訪問学習> <input type="checkbox"/> 1. 青年海外協力隊等体験談 <input type="checkbox"/> 2. JICA 事業説明 <input type="checkbox"/> 3. 国際理解ワークショップ <input type="checkbox"/> 4. 民族衣装試着 <input type="checkbox"/> 5. 施設見学
	希望する内容の詳細・補足	
希望日時	第1希望:西暦 年 月 日() : ~ : (校時) 第2希望:西暦 年 月 日() : ~ : (校時) 第3希望:西暦 年 月 日() : ~ : (校時)	
実施場所		
講師への謝金	<input type="checkbox"/> お申し込み団体の基準で謝金と交通費を負担できる 交通費負担 (円) 謝金負担 (円)	
	<input type="checkbox"/> JICA の基準で謝金と交通費を負担できる ※JICA の講師謝金基準は交通費実費、謝金1時間/人当たり4,600円です。	
その他	・写真撮影: <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 ・ホームページ掲載: <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	
訪問学習のみ記入	・食事 : <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> センター内食堂利用 ・交通手段 : <input type="checkbox"/> 車(台数: 台) <input type="checkbox"/> バス(台数: 台) ※「センター内食堂利用」を選択された方は、食事希望の方のアレルギーと宗教上の理由等で食べる事が出来ない食品をご確認の上、それらの有無及び種類を備考欄にご記入ください。 ※センター内の食堂を10名以上でご利用予定の方は、ランチプレートとなります。金額については、お申込時にお問合せください。 ※施設内の駐車スペースが限られています。乗り合わせてのご来館にご協力ください。 ※バスの駐車、待機はできません。乗り降りのみ可能となりますので予めご了承ください。	
備考		

出前講座の実施に関して、児童・生徒等の参加者が負傷する等の損害が発生したときは、JICA 又は講師の故意又は重大な過失による場合を除き JICA 及び講師は責任を負わないものとし、当方(要請元)の責任において解決することに同意します。

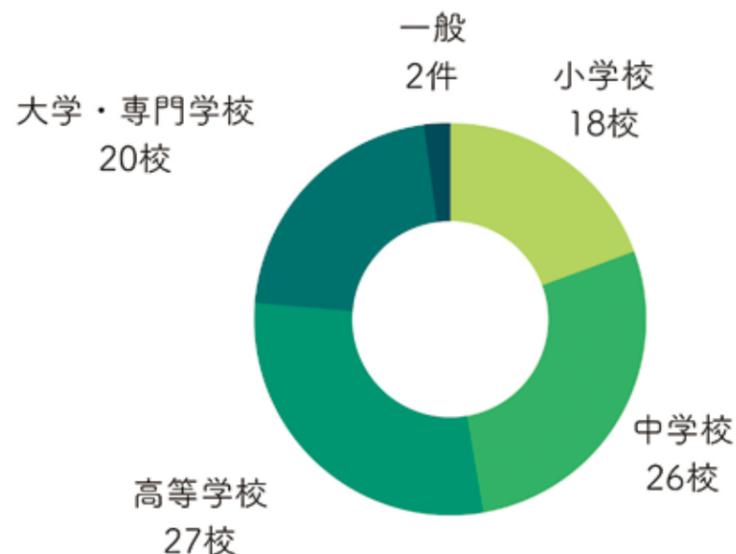
提出先(業務委託): (公社)青年海外協力協会 沖縄事務所(JOCA 沖縄)
TEL: 080-8020-8441 FAX: 098-943-7802 E-Mail: joca-okinawa@joca.or.jp
※E-Mail で申込書を提出される場合は、必ず oiactpp@jica.go.jp 宛にも送信ください。

プログラム実施の傾向

2021年度に実施したJICA国際協力出前講座・センター訪問学習等93件の実績をまとめました。

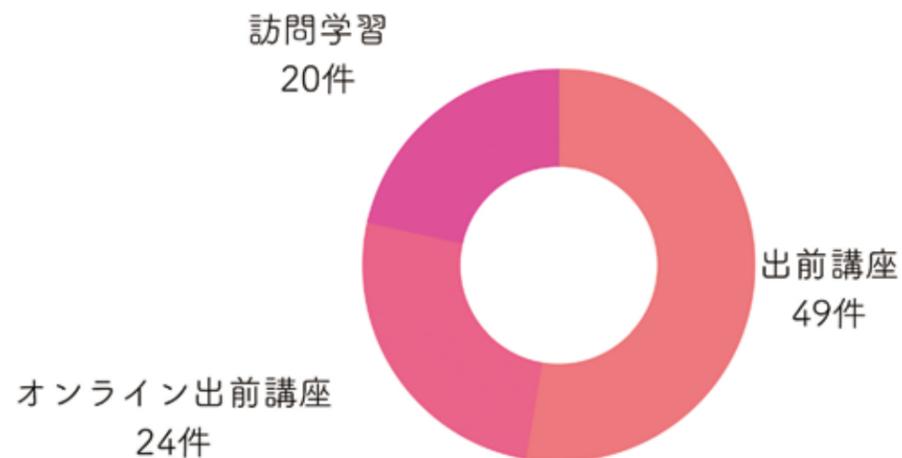
校種件数

小学校は学年単位、中学校は学年単位や教科学習に合わせて、高等学校は国際協力に興味関心のある生徒や学科毎に、大学はゼミ単位でのお申込が多くあります。



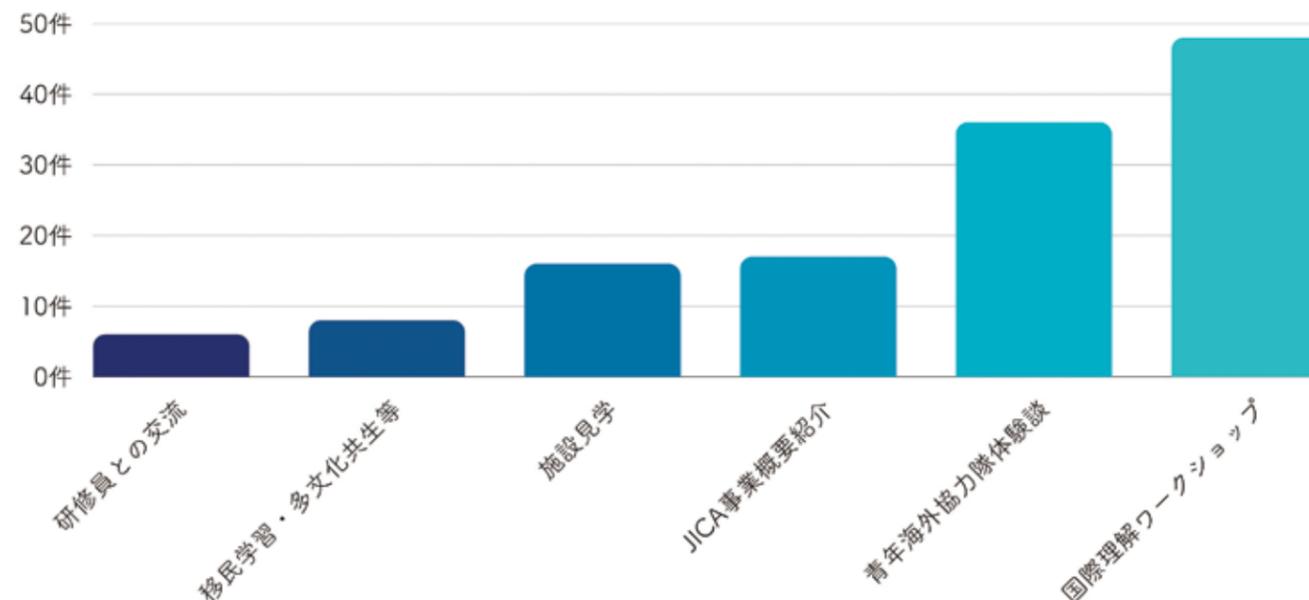
実施形態

対面型の出前講座や訪問学習の実施が75%、2020年度より開始したオンライン出前講座が25%を占めており、実施形態の選択肢が広がっています。



希望内容の傾向

プログラムの実施においては、国際理解ワークショップ単独の依頼だけでなく、青年海外協力隊体験談等との組合わせたの実施も多いです。最近では、移民学習・多文化共生といったテーマの要望もあります。



各ワークショップ実施件数

内容をアレンジしやすく、対面でも、オンラインでも実施可能な異文化理解フォトランゲージの実施件数が最も多いです。SDGs関連のワークショップの依頼も増えています。

